

近畿情報通信セミナー

～デジタルトランスフォーメーションがもたらす

未来社会「Society5.0」～

■日時 令和元年6月19日(水)13時30分～17時

■場所 関西大学梅田キャンパス 8Fホール(大阪市北区鶴野町1-5)

講演内容

① 演題:「NVIDIA AIプラットフォームと最新活用事例」

講師:エヌビディア合同会社 インダストリー事業部
事業部長 齋藤 弘樹 氏

② 演題:「IoTビッグデータは都市を進化させるのか」

講師:大阪大学 大学院情報科学研究科 助教 佐々木 勇和 氏

③ 演題:「テクノロジーでスポーツに革命を！」

～3DセンシングとAIが切り拓く未来～

講師:富士通株式会社 スポーツ・文化イベントビジネス推進本部
第二スポーツビジネス統括部長
兼)東京オリンピック・パラリンピック推進本部 シニアディレクター
公益社団法人日本新体操連盟 理事
藤原 英則 氏

各講演の詳細は
裏面へ…

■主催 近畿総合通信局、近畿情報通信協議会

■協賛 情報通信月間推進協議会

① 演題:「NVIDIA AIプラットフォームと最新活用事例」

AIは確実に様々な産業に浸透してきております。講演では最新のAIの活用事例を交えて、NVIDIAが提供するAIコンピューティングプラットフォームをご紹介します。

◎講師: エヌビディア合同会社 インダストリー事業部 事業部長 齋藤 弘樹 氏

プロフィール: 2008年にNVIDIAに入社後、モバイルビジネスを担当。スマートフォンやタブレットにおけるビジネスデベロップメントを経て 2014年よりロボティクス分野での市場開拓を開始。2017年よりロボティクス、ファクトリーオートメーション、ゲーム機器を管轄するインダストリー事業部 事業部長に就任。

② 演題:「IoTビッグデータは都市を進化させるのか」

Internet of Things, IoTが発展するにつれ、新たな利便性追求と環境改善を目的した試みが増えています。地方自治体では、公共交通機関や街の固定物にセンサを設置し、データ収集を実施しています。それにより、大規模かつ多様なIoTデータが収集され、IoTビッグデータの重要性が増しています。多種多様なIoTビッグデータは、街の状況把握や、都市計画、将来予測に活用されています。本講演では、スマートシティに着目して、どのようにIoTビッグデータが収集・分析・利活用されているかを国内外の具体例を用いて説明します。最後に、今後の街の変遷・進化とIoTビッグデータについての展望を述べます。

◎講師: 大阪大学 大学院情報科学研究科 助教 佐々木 勇和 氏

プロフィール: 2007年北海道釧路高専卒業後、大阪大学工学部に編入学。2014年大阪大学大学院情報科学研究科博士課程を修了後、2年間の名古屋大学ポスドクを経て、2016年より大阪大学大学院情報科学研究科助教。モバイルネットワーク、データベース、およびデータマイニングの研究に従事。

③ 演題:「テクノロジーでスポーツに革命を！」

～3DセンシングとAIが切り拓く未来～

富士通は体操競技や新体操などの競技を統括する国際団体である国際体操連盟(本部:スイス ローザンヌ)と、より公平かつ正確でリアルタイムな採点支援の実現を目指し、共同で3Dセンシング/AIによる体操プロジェクトを推進しています。富士通独自の技術である、選手の動きを3次元でとらえるレーザーセンサー技術、センシングしたデータから骨格の動きを推定し数値化するデータ処理技術、およびそれを映像化する技術を活用し、「する」「観る」「支える」の観点からスポーツの新たな世界の実現を目指しています。本講演ではその取組の状況をご紹介します。

◎講師: 富士通株式会社

スポーツ・文化イベントビジネス推進本部 第二スポーツビジネス統括部長
兼) 東京オリンピック・パラリンピック推進本部 シニアディレクター
公益社団法人日本新体操連盟 理事
藤原 英則 氏

プロフィール: 1970年 大阪府生まれ。前職は金融マン、富士通に転社後、大手SIerの営業。2015年 東京オリンピック・パラリンピック推進本部でスポーツビジネスの企画、推進の統括部長として、Bリーグ、日本バスケットボール協会とのICTパートナー契約や日本体操協会との共同研究、国際体操連盟との業務提携など、新ビジネスの企画の立上げを行う。現在は、世界初の3Dセンシングによる体操プロジェクトの責任者。またスポーツ庁の委員の経験等、スポーツ行政にも関わりながらスポーツの産業化、国民のスポーツ振興・健康促進にも尽力する。